

日本で働いた経験から

ミハウ・マズル **Michał Mazur**

こんにちは！ミハウです。ポーランド南部にある古都クラクフの出身です。私の家族は音楽一家で、父はジャズミュージシャンです。高校まで音楽学校に通いましたが、ほかにもいろいろ関心があって、父の跡は追わず、自分の途に進むことにしました。自分は言語学習と教育やコンピュータサイエンスに興味があったのです。それと、もう何年もパートタイムのジャーナリストの仕事もしています。

私はクラクフ教育大学でポーランド語と文学を修めました。2009年に文部科学省の奨学金で来日し、まず小樽商科大学で認知心理学を学び、2011年に北大の情報科学研究科博士課程に入学しました。主専攻は自然言語処理で第二言語修得のためのe-ラーニングテクノロジーを研究しました。

北大に移ってからは奨学金が無かったので、経済的支援無しに日本で暮らす方法を学びました。仕事を見つけて自立するため、まず日本語能力を磨く必要がありました。大変でしたが、数年を経て、奨学金無しの生活にも多くの利点があると思っています。できるだけ行動的になり、たえず新しいチャンスを探し、新たな人脈を作る必要がありました。お金を節約することを学び、奨学金のある多くの留学生よりも深く日本を体験することができました。

間違いなく、教えることはもっとも良い経験のひとつです。私は3歳から82歳までさまざまな地域の市民に英語を教えてきました。それはいろいろな世代の日本人の人々を知り、日本人について興味深い多くのことを学ぶ最上の方法でした。北海道科学大学や北海学園大学で非常勤講師もしました。ときどき日本人学生にポーランド語を教えることもあります。彼らは私の国の言葉や文化に驚くほど関心があるのです。教える仕事のほか、偽の教会で偽の結婚式を司る偽の司祭というとても愉快的な経験もあります。ある画家グループのモデルをしたり、ショッピングセンターや幼稚園でサンタさんを務めたこともあります。

ドクターコースの間いろいろな組織で働きましたが、いちばん思い出深いのは北大生協、特に留学生委員会の仕事です。日本人の働き方についてたくさん学び、日本の会社を内側からみることができました。北大代表として全国留学生委員会に参加し、2年間で全国を旅し沖縄、京都、東京、大阪

などをみる機会がありました。札幌地域のさまざまな国際交流イベントに参加し、自分の国の歴史、食べ物、言葉、伝統についてたくさん話しました。

大学院を終えてから、北大高等教育研修センターの学術研究員になりました。これは今まででいちばん良い職のひとつです。海外旅行のチャンスもあり、素晴らしい人々と一緒に働けるのです。大学の教職員のためにセンターが主催するさまざまなイベントに参加し、いろいろ新しいことを学べるので、これは本当に素晴らしい仕事です。新しいスキルを発展させられる仕事は、いつでもベストの選択です。それに、大学院を終えたあと教職員の視点から大学について学ぶのはとても興味深いことです。

まとめると、私の日本での生活はとてもエキサイティングで、将来役に立つ多くのことを学べたと思います。私のキャリアが来年どうなるかまだ分かりませんが、もっと長く日本で暮らしたいです。大学院を出てまだ数ヶ月ですから、社会人としてもっと経験を積みたいと思います。自由な時間には、私の日本での学生生活について本を書きポーランドで出版し、若い人たちに日本の生活と学びについて私の経験を伝えて参考にしてもらいたいという、秘かなプランを温めています。それによって、より多くのポーランド人が日本に来て教育を受けることに興味を持ったらいいいと思います。

日本のみなさんすべてに、いつも親切にしてくださる、こうした経験すべての機会を与えていただき、心から感謝しています！将来は、ポーランドと日本との関係がますます良くなるように、ベストを尽くしたいと思います。

北海道ポーランド文化協会のことは、ずいぶん前から聞いていました。「ポーランドの友」が北海道地区にこんなにたくさんおられることを知ってほんとうに驚きました。「午後のポエジア」をはじめ協会主催のイベントにはよく参加させていただいています。両国の絆を強めるための協会の活動すべてにいつも感謝しています。

(訳 安藤厚)

